精神力動論からケアを導く精神看護の事例検討

○小林 信^{1,7)}, 須藤 公裕^{2,7)}, 神澤 尚利^{3,7)}, 寺岡 征太郎^{4,7)}, 寺田 美樹^{1,7)},
則村 良^{5,7)}, 田上 美千佳⁶⁾

- 1) 東京医科大学医学部看護学科, 2) 医療法人交正会笠寺精治療病院, 3) 東京都立大学健康福祉学部看護学科,
4) 帝京大学医療技術学部看護学科, 5) 医療法人財団青溪会駒木野病院, 6) 千葉大学大学院看護学研究院,
7) 精神看護ケア検討会事務局

精神看護を展開していく上で、その対象である人間、精神障害をもつ患者さんの言動や困難を『こちら』という視点から理解していくことは重要です。しかし、こちらという誰しも知ってはいるが形のないものを理解していくことは簡単ではなく、それを捉えるためには<枠組み>が必要です。この枠組みを形作る諸概念や諸理論の基礎となるもののひとつに精神力動論(精神分析理論)があります。精神力動論は、私たちが臨床で出会う一見では理解することが難しい患者さんの言動の背景、こちらの機序・動きに注意を払い、私たちが患者さんを理解することやこちらに寄り添ったケアを生み出すことを助けてくれます。薬物療法が治療の主流になった現代精神医療においても、精神力動論の重要性は論を俟ちません。しかし、救急・急性期治療に重点が置かれている昨今、精神力動論に興味はあるがそれをどのようにケアに活かしていくの分からないという人たちが増えてきているのではないのでしょうか。

普段、臨床で行う事例検討は、患者さんの理解やケースの方針を決定するためだけに行われるのではなく、副次的には事例検討に参加した者の成長を促す面もあります。事例検討で看護師や他の職種をまじえてアセスメントや意見を交わし、学びを深めたという経験は誰にもあることでしょう。本ワークショップでは、精神力動的理解を軸にした事例検討を行い、精神力動論を活用してケアを導いていく過程を学びます。

本ワークショップの目的は、参加者が精神力動論を用いて事例を理解する、ケアの方略を導き出す体験をすることにあります。具体的には、実際に精神力動論

の諸概念や考え方を活用しながら、事例のなかで展開されている患者さんのこちらの状態とその動き、そしてその個人の理解だけでなく、家族、看護師や医療チームのこちらの動きと行動を理解し、ケアを考えていくという事例検討を行います。私たちはこれまでも精神力動論的に患者を理解することに重きを置いてきましたが、今回のワークショップでは、その理解をもとにしたケアを導くことに重点をおいて事例検討を展開し、参加者とともに事例検討に参加して得た気づきや思いなどを共有する時間を持ちます。

【ワークショップの構成】

- 1) オープニング(趣旨の説明)
- 2) 事例紹介
- 3) 事例の理解とケアの検討
- 4) 事例検討を通して得た気づきや思いの共有
- 5) クロージング(まとめ)

ワークショップにおける倫理的配慮として、参加者には開始前に守秘義務等への同意を確認し、同意書への署名を求めます。また、事例の情報が記載された資料は個人が特定されないように、本質が損なわれない程度で加工を施し、参加者の持ち帰りを一切禁止します。なお、ワークショップ中における録音や撮影も禁止します。

これまでも精神力動論を活用した事例検討に取り組んできた私たちとの対話をとおして、精神看護の対象を深く理解してみませんか。また精神科看護の臨床に携わっていないけれど、患者さんのこちら、力動的理解に関心があるという方々のご参加もお待ちしております。